

International MG/COVID Working Group から新型コロナウイルスの pandemic における MG/LEMS へのガイダンスが発表されました。

下記のリンクからその論文にアクセスすることができます。その中から何点かピックアップいたします。

- 特段の事情がなければ MG/LEMS における現在の治療内容を変更しなくてもよい。
- 免疫グロブリンや血漿浄化療法など通院を必要とする治療を行うかどうかは、その地域の感染状況をみて決める。
- 補体阻害薬が COVID-19 感染を促進する証拠はない。
- リツキシマブ投与は延期することが望ましい。
- 実際に MG/LEMS 患者が新型コロナウイルスに感染した場合、COVID-19 が軽症であれば治療を継続するが、重症であれば一時的に免疫抑制療法を止めることも考慮する。

なお、本邦では 37.5℃以上の発熱が 2 日以上続いた場合に「新型コロナウイルス相談窓口」等に連絡するように通達されています（基礎疾患がある場合）。

しかし、エクリズマブを投与している患者さんの場合、発熱の原因が髄膜炎菌感染症である可能性がありますので、2 日も待つことは危険です。

このため、該当の患者さんは従前通り発熱したら速やかに主治医に連絡をするようお願いいたします。

詳細は論文をご覧ください。

[https://www.jns-journal.com/article/S0022-510X\(20\)30139-8/fulltext](https://www.jns-journal.com/article/S0022-510X(20)30139-8/fulltext)

国際医療福祉大学  
村井 弘之